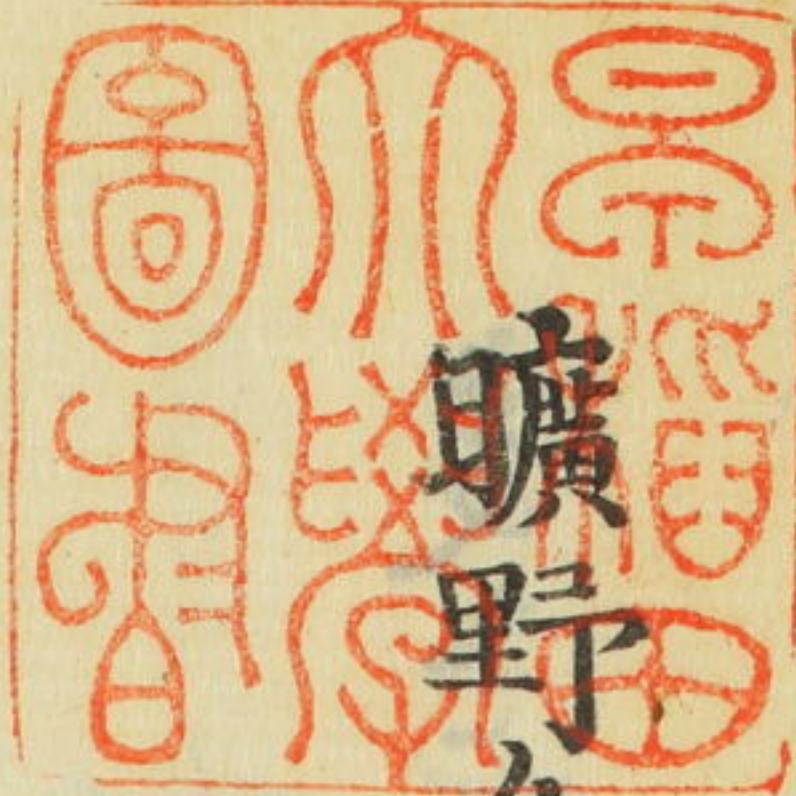


佛譜七部集  
阿羅漢傳  
附錄  
七

5  
4406  
7



門へ 5  
號 4406  
卷 7



曠野集 貞外



誰う毒をねもささるる世を絶つ  
市中にあきて朝のくささるる  
又舞一糸東四明子麓より  
よて花のささるる世を絶つ  
とつて 佐川田喜久のうの山  
あさあつとつとつとつとつ  
くうんす又  
麦々喰し厚とささるる世を絶つ  
世夕尾陽の影あり子持作を  
芭蕉公和の傳へしを絶つ

あ貞

昭和九年  
九月二日  
晴末

笑一にちいつは田野へ居る  
実も世も感もむう  
さきも人の中へ虎のお徳は  
さきも進も進も人あつて  
独色身夢一  
お月おう  
様もまて  
あま  
お乃  
白

素堂

麦をうす

この文人乃  
あま  
あま

野水  
荷今  
越人  
水  
今  
風の月利を

武士乃鷹うしつゝあまのし  
志をかりてつゝ海のほとり  
代衣をせ経とて出あまのし  
はふと降らぬくははむる  
去之に松の直をたを乃程  
千夕をたむ山さるゝ  
地さぬゝ一と梅も咲あつり  
あてよとたなきり月あつる那

人 水 今 人 水 今 人 水

まのなまき匠のせもあつり  
秋夜なまきり次人乃妻  
明るやう西も東も鐘乃色  
さあつあつる利根の川舟  
あのはむてりゝとてかひ雲  
あ子アアと相戯うらまそ  
あつゝとあつるぬの市の場  
あつるあつる人のえり

人 水 今 人 水 今 人 水

柏木の脚瓦の比のつゝと  
 さくやういとのいふやうなる  
 月乃氣くさ合とかり辻お積  
 秋となあらく菓子里乃酒桶  
 高の志く流す物と知る言  
 うれいとまのぬる彼乃系作  
 かこある諫之流こほあし  
 火箸者やうとまこいものあり

水 人 今 水 人 今 水 人 今 水

うくすまものいふやうなる  
 むせまのやうなる海乃がく  
 せまの菓子教まらさうなる  
 押くまぬるまの怪なる架  
 里土ろ史まこ月よにたは流  
 大根まこまこてよいそか

水 人 今 水 人 今 水 人 今 水

遠はるや浪に志安とす柳と春子

はるは舟も又酒のまじり

のとまじりやあがり泊ふ何と解て

百足乃懼る茶と三つとあふ

夕月の雲は白くをくら旅

お寒の蓑も裾よりさき

糸洞

荷令

昌碧

野水

舟泉

釣雪

秋乃をふととももきく地所そや 竹

一駄るる一是と古錦 糸洞

さこのるもよらきまゝにる 巨称麻 荷今

東すね比やねあふと年 栄 昌碧

いづもあてあつた大藏達 釣雪

湯殿まいたのももむじり也 舟泉

涼しやと恋もくくも川の響 野水

いづかきれしやうは 月 荷今

秋風より女車の髪たもと 糸洞

袖そまらるるに 環機も法輪 釣雪

時くよのさくもあまのま 昌碧

いづもゆあましきもらなるし 野水

日乃いてやらふら何せん腹り 舟泉

ふやまけりしともしあああ 糸洞

向まて実ゆるほもの小ふひにて 荷今

垢離かく人のまののびるま 昌碧

配所よつて千果のか減るえつ

釣雪

三つうらふらふあまのあそび

舟泉

むくむくあひつきく赤腫る

野水

川をさく 菰子よりこむ

荷今

いさよひは怪甲の敷海し

亀洞

お母のあそびこころねとて田風

釣雪

あまのあそびあそびのうらた月

昌碧

あそびあそびあそびあそびあそび

野水

いさよひは怪甲の敷海し

舟泉

あそびあそびあそびあそびあそび

亀洞

夏の目やあそびあそび泥の照台

荷今

桶のかつてあそびあそびあそび

昌碧

くたあそびあそびあそびあそびあそび

釣雪

いさよひは怪甲の敷海し

野水



舟泉

夏一よ秋くまかりまのり

松芳

夕やあはれおのころこころん

き支

きしよまやまよえゆる月影

荷兮

秋草のこころもあまほほ

松芳

弓ひきもゆる勝相模とく

舟泉

ふも亦との拾ひむとらむ 荷今

ふもく 砂の中み木の 冬文

火風の皮みまむるもく 舟泉

涙えびしやうら笑はつ 松芳

ふもく 棠端まつしそふ 冬文

酒の半く膳もちてふ川 荷今

果々年な順礼ととす かに 松芳

くまふぬまみ 結まはえま 舟泉

なつゆりとうら志先とふの鳥 荷今

月のたほらや花も井乃及 冬文

灯にまばねひつてまの風 舟泉

珠をくまのふく脇息のく 松芳

隆辰と八齒くまの志はる 冬文

十日のこくみねしと 荷今

山星の秋をくしと生 松芳

も持かろくく入るやとむ 舟泉

ふらふらとあつたを扇の月のお 荷今

馬乃とを流るるのいあ〜 冬文

さひ〜ささき岳井の存のあは雨 舟泉

慈ぬま〜と蓋まあふ〜と申 松芳

つ〜とと綿〜ととぬの〜とと 冬文

暖ぬ〜とと提燈品〜ととむ 荷今

け〜の花と〜とあ〜とす〜とる〜と たぬよ〜と 松芳

味啼〜ととと〜ととの隣〜とと〜と 舟泉

芳白乃乃〜とと〜とと新〜とと分 荷今

沙舟〜ととあ〜とと〜とと欠なふ 冬文

暮ぬぬ赤貝と〜とと〜とと〜とと 舟泉

顔え〜とととととととととととと 松芳

〜ととととととととととととととととと おととととと 冬文

お〜とと面白〜とと山口の家の 荷今

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

船一葉六客十一人  
舟一葉六客十一人  
荷手

かきさきし結ぬ公のおもあや

雨のつゝ我ふくこてりテの口 野水

引一控一車ハ琵琶のかいぎて 同

あしきう那くも人のうらみ 荷手

月の秋旅乃きここちも 同

一荷にまゝし 野水

初あ〜〜〜とらせの蜜の坊主は 水  
 茶畑畑むのせとらせとらせとら 今  
 土肥をた〜〜とらせとらせとら 全  
 下判おとす種をわら〜〜 水  
 通後の〜〜とらせとらせとら 全  
 六位のあ〜〜とらせとらせとら 今  
 代よ〜〜とらせとらせとら 今  
 銭一貫と〜〜とらせとら 水

月乃節をば〜〜とらせとら 全  
 茶畑畑むのせとらせとら 今  
 天仙〜〜とらせとらせとら 全  
 うちの〜〜とらせとらせとら 水  
 た〜〜とらせとらせとら 全  
 夕〜〜とらせとらせとら 今  
 駒のや〜〜とらせとらせとら 水  
 秋のあ〜〜とらせとらせとら 今

先... 全見 水

八日乃... 全 水

山乃... 全 水

... 全 水

... 全 水

太鼓... 全 水

... 全 水

... 全 水

... 全 水

... 全 水

三方... 全 水

供奉... 全 水

... 全 水

... 全 水

月...の...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

月...の...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

月...柄...

蚊の... 越人

... 傘下

... 同

... 人

使の者... 同

ぬれに花と猫の子を選りしむる筆  
 一 昔はもろこしあはしこみり 下  
 ところやうものあえさしおむり 同  
 おもおもひけり後さうすのわ 人  
 大勢乃人よ法華をこあさゆく 同  
 月より夕に物籠傳うは 下  
 喰ふ柿も又くふくさも皆思へ 同  
 秋乃きりさけ細みるまの 人

一のやうにむらびきむらむら 同  
 寂者のく書く文字はゆるむ戸 下  
 花の習ふくさしむるはあは 同  
 鳥もの糊紙こそさきくつれ 人  
 うら廻く浦の管屋の格二とて 同  
 内へといひて今身やゆめ 大 下  
 酔さやのあはゆるさしはあは 同  
 めく志はつなは雨乃降出 人



歌あそび指名種首おひきく  
すゝ献立のしめしめちのちかき  
灯其油のしめしめしめしめし  
白とたせしめしめしめしめし  
ゆゑ凡そ其のしめしめしめしめし  
半さこそしめしめしめしめしめし  
むつくとしめしめしめしめしめし  
人の徳こそしめしめしめしめし

同  
下  
同  
人  
同  
下  
同  
人

はさしめしめしめしめしめしめし  
千もはさしめしめしめしめしめし  
わらうとせしめしめしめしめしめし  
皆同しめしめしめしめしめしめし  
百一かたしめしめしめしめしめし  
の樂とせしめしめしめしめしめし

下  
人  
下  
人  
下  
人

歌  
下

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 人, 不, 人, 不, 人, 不, 人, 不.*

深川の東

越人

舟のこゝろ志願くくまきうひまや

浦志あめ〜ぬこのは乃月

とあまうの浦惟お終お座こめてつん

理ととれま〜は秋乃り夕に沈

飄算の大きと五石ころのりや

風よぬのゆ〜く帰るる市人

市人

注

芭蕉

全

越人

全

芭蕉

かきくも長安の長利の地 全

賢のねんまは月くちか 越人

あつと作き乃くくまあぐ 芭蕉

あつと作き乃くくまあぐ 越人

比里と古きをまあはあつとく 芭蕉

足張ちのこぬ雨乃あけほの 越人

まあくやあつとあつとあつと 芭蕉

うきひさたなよき乃くくく 越人

ふとこのあぢの尻膝もすくぬ 芭蕉

物いそくさく舟ぬたわくち 越人

月とむ比良のまねをいよて 芭蕉

ちく雀さくつるころれ肌ぬを 越人

破れくらの新くちら付はまの未 全

えとハさひこまきみひきいせ 蕉

家川くま眼ぬ衣はくむ十す鏡 人

そのねあひあつと神子あつとのい 蕉

人去ていさしは聖乃白ひたる

人

幼衆と繋る崖とら片隅

蕉

本とまゝに風のあはくははは

人

切極のさしき霞らうらほはは

蕉

あやにくこおみ妹々りあうは

人

はのきくたうなみこつとあは

蕉

り月みうとれらうらほはは

人

旅と遠く越えいねふり

蕉

秋の田をわきぬらうらほはは

人

わらわら文字問こらうら

蕉

いらは瓦庇らう木葉金

人

廻きあはれ子乃柳らうらほは

蕉

をの比佐義とあはうらほは

人

甲由とこらうらほは

蕉

翁之伴なきはくも人の  
 具角  
 是れはく荷子也天津  
 人  
 三あさの月見あまの  
 越人  
 菊枝の度とるは川ついで  
 全  
 飲してあはくはあまの  
 角  
 唯うまは福くけはあまの  
 全  
 齒はあまのあまの  
 人

翁之伴なきはくも人の  
 具角  
 是れはく荷子也天津  
 人  
 三あさの月見あまの  
 越人  
 菊枝の度とるは川ついで  
 全  
 飲してあはくはあまの  
 角  
 唯うまは福くけはあまの  
 全  
 齒はあまのあまの  
 人

何れも同様にふるまひてゆく人

静けさありて舞をすまはる角

空蟬の雛蝶乃水のねまら全

あともうのこころの金二万両人

いよもいよも他人のまをけしり全

やけとふさふさしてさつさつと角

間諜と耳くくつさつとさつと全

負をもつて月のはげし舟人

そをいらの富士と陸まうく終の終  
全



たやうしつてゐる草乃一瓶角

饅頭をもちてとどく包も全

うき世つたて死ぬ人の損人

西王母東方朝と月よはえす全

よーや鸚鵡の舌乃ていふ角

あつたさなやまをさしてさつとさつと  
全

恋の親もさつとさつとさつと  
人

や、お母のいふは、こゝろおぼしき  
 来つゝ青も原一をなかりり  
 夕霧宿のそとく服乃ては  
 くののなきを存み強力  
 穴いちよ塵うちらうひ草一枕  
 ひいあうさうてく仔細の八朝  
 満月と不断梅を詠えりや  
 念者法師を秋のあまの海  
 全 角 全 人 全 人 全 角 全

夕霧のいふは、こゝろおぼしき  
 来つゝ青も原一をなかりり  
 夕霧宿のそとく服乃ては  
 くののなきを存み強力  
 穴いちよ塵うちらうひ草一枕  
 ひいあうさうてく仔細の八朝  
 満月と不断梅を詠えりや  
 念者法師を秋のあまの海  
 全 角 全 人 全 人 全 角 全

家も〜し 舟角人の醒や記  
 秋を寒し〜つと陽の縁 越人  
 月の宿書をしらぬ 女  
 水面茶の鼻 及び之 雪  
 ちよあひく 牧こす 里の 全  
 川越と終を 城下の 人

嵐雪



庖癘自の透とるるを菌の  
唱のさきくす芭あまの  
あまのさきくす芭あまの  
後そひよやのさきくす芭  
とねとるる由あまのさきくす  
乃能たるるかへる良人  
是地を礎とてと川脱  
明日を妙友とてと月の月影

人雪同越人鼠雪越

あまのさきくす芭あまの  
一まの醫者乃後深あや  
あまのさきくす芭あまの  
あまのさきくす芭あまの

人雪越人

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 野水 and 同.*

野水

泣雲やことりのひとも桐の末に

月のみしうまやまののち起 落梧

山川や鶉の啼きのとさうすん 全

糸を遠かしくかきかた 野水

柱あふさま押合月を早外つ 同

あ〜〜〜ししち櫃から秋 落梧

あつ

落梧

川越乃歩よさしけの繩の雨  
 ねぞと柳のふりかたのさしけ  
 つとせとまぢりあくかきし縁地  
 すうくさあふ比のさしけ  
 更るあめのほとむしとあけ  
 こそくりあす相伝さる後  
 岸の松あちあち力を足あかり  
 歳もあうららのらきあ舞と

水 梧 水 梧 水 梧 水 梧 水 梧

煮んぶ子あまのぬまこと一文  
 下戸と皆いく月の木平ろき  
 耳や遠やさくくもさしけ教あす  
 さしけとさしけさしけの初午  
 い川やうもさしけさしけおん  
 山伏負て人志る係たりあま  
 ころりしとくさしけあま  
 推知るそと係園ささしけ

水 梧 水 同 梧 水 梧 水 梧 水

五七

三三

何の舟を流しむ心髪を振おほひ  
 くるくおとらぬは紙のあき  
 まらうしらの馬のせうし  
 うらふ舟中を詠福あつらひ  
 雨やうらむれらるる面白や  
 柳ちゆのやしの倒の苾道  
 朝なうく月丁とさり飛子十間  
 寂しぞ秋の女あはれなり  
 梧 水 梧 水 梧 水 梧

白の上もくちまのうらやまし  
 未だもくちまのうらやまの酒  
 船の千魚はるる川ゆき  
 誰とアヒとイノ見とて居  
 まる魚乃くちまの峠あえす満  
 めくらとてなくと雨を産め  
 梧 水 同 梧 全 水

三

三

一里 子 炭 賣 其 一 一 井  
 か ち ひ の 支 瓶 氷 了 胡  
 さ さ く は 也 正 本 ち 一 後 及  
 肩 子 如 ち つ 通 洞 ち 一 人  
 夕 月 能 入 ち ち 早 ち 極 ち ち 八  
 た り ち 以 銀 ち ち ち ち 秋  
 一 井  
 長 虹  
 嵐 彈

里深く踊るう二三月 長虹

ま司々妻くわれら舞 胡及

向り舞くも涙よりおのろけ 一井

昔亀やうきさく切をく文 氣彈

うやうやも寝起ちうのう湯と 胡及

をいゆく東羊の越み雪鋤 長虹

なううのうよとてあひてはらち舞 氣彈

蛤とアさくも女中 一井

浦風之脛吹まくる身流く 長虹

みるもかくく化紀作の魂を 胡及

あ者乃さく矢射てたる為 一井

蒜くぬ香く遠さうやんり 氣彈

ほものう舞あましくも舞るん 胡及

成の子乃綿乃襦くさうつ 長虹

そあしきる内もさくも度 氣彈

座安もさある敷屋も物さり 一井

西遊

三九

木もさかたにあるしじり松の枝 長虹

秤にくる人しじり乃真 胡及

けふ年一なるもく冬の時 一井

はくくくせきくくついで月 嵐弾

きききく障子の障子うきき 胡及

こくくくくくくくくくくく 長虹

あき極入道のまのころあき 嵐弾

衣引あき人のとき 一井

毒ありと瓜一と池も冷めく 長虹

片風あらしくも白雨 胡及

板をさく端あなき庭の内 一井

くくくくくくくくくくくく 嵐弾

あくくくくくくくくくくく 長虹

見わすくくくくくくくくく 胡及

寛政七年乙卯春三月再刻

皇都書林

筒井庄兵衛  
浦井徳右衛門  
野田治兵衛  
梓行

芭蕉翁

俳諧七部集續編

深川卯辰集有誤。海嶽並心  
韻子見芭蕉庵小文庫子多掛

小刻全部二冊出來

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



